
魂鬼

寂夜雫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魂鬼

【Nコード】

N 4 6 3 1 D

【作者名】

寂夜雫

【あらすじ】

大切な人を失ったとき、人は鬼になる。鬼と契約を交わした人を“暗鬼”と呼ぶ。そして、鬼を祓うことを生業としている者を“魂鬼”と呼ぶ。近畿地区の魂鬼、狐童参月が闇を駆ける

FILE. 0 魂鬼

大切な人を失ったとき、人は鬼になる。

鬼と契約を交わした人を“暗鬼”と呼ぶ。そして、鬼を祓うことを生業としている者を“魂鬼”（タマキ）と呼ぶ。

薄暗い路地裏を一人の少女が疾走、否爆走していた。

艶やかな着流しを来ており、手には小刀を持っている。一見不審人物で、警察に通報されかねない。

「現役陸上部って・・・聞いてないし！！あのやろお、何がすぐに捕まる、よ！！」

かれこれ2kmほど走っているのだが、追っている相手は一向に疲れる様子を見せない。むしろこちらがわが疲れているのではどうしようもない。

「だぁーもう！！塾帰りに言うんだったら結界くらいはっておけクソジジィー！！」

夜空の満天の星に向かって叫んだ少女の名を、狐童参月コドウミツキと言った。

いささか口が悪いようだが、本人は直すつもりは更々ない。

しばらく走ったところの十字路で、参月がはたと立ち止まった。

別に、自分が走らなくてもよくない？

考えが浮かんだ瞬間、参月は十字路を右に曲がった。そして、空に向かって印を書いた。

「えっと・・・なんだっけ？足止めだから・・・あ、“魂鬼、使い魔、金縛り”」

そのころ、参月が追っている相手は橋を歩いていた。少し前から参月の足音が聞こえなくなったため、あきらめたのだろうと思いきるのをやめた。

「ッハ・・・あの女、ずいぶんしつこく付きまどってきたが・・・まあ、これであいつに復讐が出来る」

ニタリと笑って握りこぶしをつくる。その拳が、瞬く間に巨大化し鋼のごとく硬くなる。

これが“暗鬼”。大切な人を失い、鬼と契約を交わした者を称する。暗鬼となった者を外見だけで判断するのはまず無理に等しい。だが、鬼の本性は残忍で破壊願望があるため“暗鬼”となった者の性格が変わることが多い。

最も元々の性格が凶暴ならば変わりなく生活をしているのだが・・・。

「・・・!? 何だこれ!? 体が動かねえ・・・!!」

“暗鬼”が歩こうとした刹那、橋の下より黒い影が這い上がって来た。一瞬のうちに“暗鬼”の体が、金縛りにあったかのように動かなくなる。

そして、その体は乗っ取られたの様に今来た方角へと逆走していた。

「な、何なんだよ!?!」

持ち前の脚力を活かして橋を全力で走っている、否、走らされている。

「いやあ。ご苦労様やね!! あたしから逃げようなんて百万年早いわ!!」

橋からさらに1kmほど離れたところで、参月が待ち構えていた。多少関西弁の使い方がおかしいが、本人が癖で使っているので気にしないことをお勧めする。

「何なんだよお前!!」

全力疾走で走らされた“暗鬼”が息も絶え絶えに言う。

これは、なんとも仕事が楽でいいわ。

内心これ以上走ると仕事の達成に支障が出ると思っていたので、自分の思い付きを誉めてあげたいくらいだった。

「私? 私は・・・“魂鬼”って知ってる? 知ってるわよねえ、最初に鬼から教えてもらったでしょ?」

元来鬼という者は、平安の頃より人の闇に巢食う存在。当時よりその鬼を祓う存在を魂の鬼、“魂鬼”と称し、崇められていた。だが、時代の流れにより大勢いた“魂鬼”も忘れ去られていった。そして現在、“魂鬼”と名乗る事を許されたのは全国に9人しかない。

「鬼を・・・祓う存在・・・“魂鬼”」

「だーいせーいかいー。まあ、知ったとしてもすぐ忘れるけどね！」

参月が小刀を手地に蹴る。履いていた下駄が、カランと鳴った。

“暗鬼” 目指して一直線に小刀を振り下ろす。

『この世に巢食う闇の鬼よ、狐童参月の名においてここに封印せん！ 暗鬼封固！！』

“暗鬼”の右肩に小刀を刺し、言霊を唱える。

断末魔の叫び声をあげることも許さず、“暗鬼”を封印する。“魂鬼”に封印された鬼は“暗鬼”から離れ、黄泉の地獄へと落とされる。

参月に刺された“暗鬼”は血を流している様子が全く見られない。

「・・・これにて一件落着、かな？」

肩にずり落ちてきた襟をなおしながら、ポツリと呟く。そして、夜空に向かって大きく背伸びをした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4631d/>

魂鬼

2011年1月25日17時00分発行